



Referee Time

(審判だより71号)

2024.9.24

みなさん、こんにちは。今年度・上半期、皆様による大会運営、ご支援により県内各カテゴリー大会が円滑に開催されています。ありがとうございます。

8月下旬には九州学生秋季リーグが県内で開催され、上級審判員と今後上級審判員を目指す方々による多大なご協力により、成功裏に大会を終えることができました、この場をかりて、お礼申し上げます。ありがとうございました。今年も7・8・9月と県内上級レフェリーが全国大会、九州各大会へ参加しております。貴重な報告が届いていますので、情報共有をお願い致します。

「高松宮記念杯第75回全日本高等学校ハンドボール選手権」の審判員を終えて 沖縄県協会 坂本翔作・棚原崇

8月8日(木)～8月13日(火)に、福岡県久留米市で開催された上記の大会へ、審判員として派遣させて頂きました。そこで学んだ事を、簡単ではありますが報告いたします。

(1) 事前の審判研修会

今大会の目標として「2024年度の審判員の目標(内容は省略)」を始めとし、その他にも「どのような判定をするか(判定基準)」、「笛を吹くタイミング(スピーディーなゲーム運営)」、「どのように判定するか(ゲームコントロール)」が掲げられました。

モダンハンドボールとは無駄な笛を減らし、ボディランゲージ・口頭での指示・説明が必要とされ、より求められる人間性(笛は人格を現す)を共通認識のもと、心身ともにコンディションを整える「レフェリーとしての準備」が不可欠であるとされています。

その中でも具体的に、ゲームコントロールにおいて競技開始から15分はレフェリーが最も注目される時間帯であり、両チーム・観衆に基準をうまく伝える事が重要であり、違反が“予防”されゲームがスムーズに流れ「安心・安全なゲーム運営」につながる様に、笛の長短強弱、音色、判定の間、ポイントへの移動の仕方、コミュニケーションの取り方、表情・姿勢をわかりやすく示す努力などが求められました。

(2) 男女3回戦(4試合)を担当して

今大会では男子1試合、女子3試合を担当しました。うち3試合は終盤まで勝敗がもつれ込む緊迫したゲーム展開で、非常に貴重な経験をさせてもらいました。全ての試合に共通して、選手・役員に対して早い段階で判定の基準を示すことで、終盤の勝敗を決定する場面において、各種の判定に対して選手・ベンチ役員との共通理解のもと試合を展開することができました。課題としては、女子の試合に関して

“ステップ”の管理が非常に難しく、細かく観察する能力を身に更に磨く必要性を感じました。

(3) 審判員との意見交換

今回の大会では各ブロックの上級レフェリーと日々、意見を交わす事ができました。中でも河合・臼井（AHF）ペアとの意見交換はとても有意義でした。最も印象に残っているのは「イエローカードの使い方」でした。昨今の試合では、イエローカードを使わず口頭注意という手段を用いて段階罰程度の基準を示す場面が多く見られます。その中で実際にイエローカードを使う場面、もしくは使わない場面の判断基準として、違反をした選手に対する“効果”を考える。との事でした。機械的にイエローカードを提示し段階罰を示すよりも、強い口頭で注意をした方が、効果が見込まれる場合もある。その際は、イエローカードの提示よりも、強い口頭注意で選手に罰則を伝える手段を取る方が良いという考え方でした。

その他にも「レッドカードの基準」については多くの場面が議論され、各会場で起こった事象について、即時映像などを交えて意見交換をするなど、多くのレフェリーの向上心と探究心を感じました。

(4) おわりに

この度、「高松宮記念杯第75回全日本高等学校ハンドボール選手権」に審判員として参加し、今後の沖縄県ハンドボールの発展、また審判員の育成へ向け、A級審判として模範となる立ち振る舞いや判定を県内大会で務め、更に次世代を担う後輩の育成にも励んでいきたいと感じました。以上、簡単ではありますが報告とさせていただきます。

坂本・棚原ペアの報告に続きまして、9月7日(土)に、一般カテゴリー向け審判講習会上級審判員の新垣裕己さんが務めています。各チーム責任者、審判員に関わる方々と意見交換を通して講習会を進めています。以下、新垣さんからの報告です。

研修会序盤「良いレフェリーと悪いレフェリーのちがいは？」 (選手の率直な意見)

- (審判員が)ミスしても謝らない → 人間性
- 基準がわからない → 開始15分間で示します
- (一方のチームに有利な判定)卑怯 → 両チームへのバランスを観ます



すべてのプレーヤーとチームの安全・安心が大前提

- 開始15分で基準を示すことと、両Ref、両チームへのバランスを考慮し、あらゆる場面を想定して、ジェスチャーと声かけで未然防止していきます。
- 選手、チームと円滑なコミュニケーションを図ります。
 - ・モッパの処理後には「ありがとう」と言う
 - ・3mを確保したプレーヤーに「ありがとう」と言う

モダンハンドボール

- 笛は少なく、ゴールイン後の
(プレーの状況によるが)
イエローカードはなし
- イエローは口頭注意、
2min は即介入して
- ロングフットと
オンフットを解説
- スローオフエリアを解説
- 新ルール、4回やスローオフエリアも周知



全体的な印象として、審判講習会ですが、参加者が選手として、チームとして
レフェリーと円滑なコミュニケーションをとるための場になりました。
参加された各チーム関係者の皆様、ありがとうございました。

-
- ・坂本・棚原さん、新垣さん、忙しい中貴重な報告を寄せて頂き、ありがとうございました。8月下旬には金城久徳・金城康太ペアが、氷見市で開催された全国中学校体育大会へ参加しています。
 - ・昨年度より、一般カテゴリーでは、各チームによる大会運営のもと、審判員も参加各チームで担当することから、審判員の向上のため県協会審判部より指導・アドバイスをを行っています。
本部席に、インカムを購入し、準備していますので、各チーム審判を担当する場合、積極的に使用して下さい。両レフェリーによる罰則の基準作りや判定、GKへの頭部へのシュートの判定等、**選手の安全・安心の確保のために、インカムは必需品**となっています。
 - ・下半期は、県内各カテゴリーの大会とともに、浦添市をメイン会場に県民体育大会、女子リーグが開催されます。
選手・チーム関係者とともに、安心・安全な大会運営へ向けて皆様のご協力、ご支援今後とも宜しくお願い致します。